

- 【問題意識】 ・保護者は「地域で学ばせたい」という思いと、「専門的な教育を受けさせたい」という思いがある。どちらも保障できる仕組みを考えたい。
 ・インクルーシブな教育を推進する上で、「特別支援学校はどうあるべきか」を考えたい。

1 県内どこでも居住地のなるべく近くで専門性の高い教育が受けられる仕組み

- 小・中学部の分教室の発展型として、小中学校に特別支援学級と特別支援学校の中間に位置づく学びの場を整備
- 副次的な学籍(伊那モデル)や、小学校と同じ校舎内にある須坂市立支援学校(須坂モデル)の取組を発信・拡充

2 高等部分教室における多様な教育的ニーズへの対応

- 分教室から高校へ「通級による指導」等の特別支援教育の専門的支援
- 高校の専門性を生かした、分教室の職業教育の充実(「デュアルシステム」の共有等)
- 分教室を積極的に評価し、発展的に検討

3 連続性のある「多様な学びの場」の一つとしての特別支援学校

- 小・中学校等との「学習内容の連続性」を強化(特に知的障がい特別支援学校) ※新学習指導要領との関連

4 個別相談への対応から、各小中高自身の特別支援教育への対応力を高めるためのセンター的機能

- コンサルテーション力の向上
- それぞれの小・中・高等学校内に専門家を育成できるような仕組みの構築

5 「障がいのある子と一緒に過ごすことの価値」を地域に発信

- 地域人材や地域資源を活用した、地域とつながる教育活動の推進
- 地域の理解が学校を支え、学校の存在が地域の新たな活動を生み出す関係づくり